



特集 知っていますか！
地域にはたくさんの**宝物**があることを

特集 知っていますか！ 地域にはたくさんの**宝物**があることを



農村体験（グリーン・ツーリズム）「てなにし」

グリーン・ツーリズムとは、一言でいうと「みどり豊かな農山漁村地域において、その自然・文化・人々との交流を楽しみながら余暇を過ごす旅」のことを言います。都市に住む人たちの中には、余暇活動のニーズや自然と触れ合いたいと考える人があり、農山漁村地域に住む人たちの中には、地域づくりを推進しようとする人がいます。双方のかけ橋となるのがグリーン・ツーリズムなのです。これまでの観光と違うのは、テーマパークのような大規模な開発は行わず、地域のありのままの自然や施設等を利用して、豊かな自然・文化施設、住民との交流を通じて、農山漁村の価値や魅力を再発見し、昔ながらの生活に触れる、そんな旅がグリーン・ツーリズムです。

『双海地区グリーン・ツーリズム推進協議会』

双海地区では、農・林・水産業を営んでいる方の高齢化や産物価格の低迷などにより、衰退する地域の活性化を図るため、平成17年8月に「伊予市双海地区グリーン・ツーリズム推進協議会」が設立されました。

協議会は、双海地区に住む方々で構成され、自分たちが住んでいる地域の素晴らしさを多くの方に知ってもらおうと「地域住民への推進普及」「地域資源の発掘・再調査」「人材の育成」「農山漁村体験メニューの作成」など、ワークショップ（研修集会）を通してさまざまな取り組みを行っています。

この活動の一環として、10月1日に「翠地区ほたるの里の農村体験in双海」が開催されました。

農村体験の指導者として 参加した翠地区の名人たち



竹馬づくり 亀岡さん



こんにゃくづくり 西岡さん



ホタルの話 河野さん



名人の指導による農村体験

ホタルの話、こんにゃく、竹馬、竹鉄砲、ワラ細工の体験では、名人の指導のもと、子どもは無邪気に体験を楽しみ、大人は昔遊んでいたころを思い出し、懐かしさの中で体験を満喫していました。

こんにゃくづくりでは、芋からこんにゃくができることを初めて



受付開始

農村体験は、最初が肝心。今ではほとんど見かけることがなくなつたフラグロを臨時駐車場の傍らに作り、田舎の情景を参加者にも感じてもらいました。

県下各地から参加した30組の家族は、翠小学校(築75年の木造校舎)で地元代表者の歓迎のあいさつを受け、さあこれから体験の始まりです。



知った子どもたちのこぎりやカッターを使って竹細工を作る体験では、親は子どももがけがしないように補助をしながら、上手にでき上がったときには家族で一緒になつて喜んでいました。

また、名人たちは指導の傍ら、「来年の6月にもう一度この地域に来てくれたら、ホタルがいっぱい飛ぶところを教えますよ。」などと、参加者と交流を深めながら、地域の良さをアピールしていました。

参加者は、自分の手で作つた、いろいろな形をしたこんにゃく、パンと大きな音を立てて飛ぶ竹鉄砲、何度も作り直した竹馬に愛着を持っていました。



特集 知っていますか！

地域にはたくさんの**宝物**があることを

その他にも、たくさん地域の方々が協力し、指導体験や料理づくりに参加しました。



郷土料理を作った
地元女性グループの皆さん



ワラ細工(ワラボテ) 上西さん



竹鉄砲づくり 福岡さん



『クイズ大会』 地域の良さを知ってもらおう

クイズ大会では、開会式の後に行った「ホテルの話」やこんなにやぐ体験から出題（ホテルが何匹いたら、ろうそく1本の明るさになるでしょうか？）最後まで残った方には、地元の特産品がプレゼントされました。

（答え11万匹）



体験で体を動かした後は、女性グループが地元の食材で作った郷土料理（芋たき・新米おにぎり・みかんゼリーなど）でおもてなしをしました。レストランでは味わう事ができない素朴なふるさとの味は、参加者に好評で「おかわり」の行列ができていました。



郷土料理で昼食

地域の宝物

体験を指導した名人は、日常、農業や自営業、会社員などの仕事をしている地元の方々です。

この方々は、高齢化・後継者不足など衰退していく地域を何とかしようと立ち上がり、双海のグリーン・ツーリズムに参加しています。

都市に住む人たちが、「癒し」を感じる地域資源は、竹やワラ、田園風景など地域のいたるところにあります。

一番大切なのは、人材の育成です。

「地域には、どのような資源があるのか」「それをどのように活用し、農村体験に結びつけるか」などを真剣に考え、活気ある地域にしようと頑張っている人材がグリーン・ツーリズムには必要不可欠なのです。

地域を活性化するためには、「人づくり」が大切であるといわれています。今回、今回の農村体験で、名人として指導した方々だけでなく、企画・準備の段階から協力したすべての方が、地域の財産であり宝物なのです。



閉会式の後、参加者は、料理を準備した女性グループの皆さんが販売する野菜や果物、漬物、味噌、クッキーなど手づくりの加工品や地元の特産品を手にかき回しました。



帰りに農産物を販売して終了